

武蔵野美術大学図書館編
『槿の画家・柳瀬正夢展』

評者：梅田 俊英

本書は、2008年10月6日から25日にかけて、武蔵野美術大学美術資料図書館において行われた展覧会の図録である。図録とはいえ、何人かの専門家が柳瀬とその周辺についての論評を寄せているので、今回紹介することとした。

武蔵野美術大学に柳瀬の作品があるのは、柳瀬の長女の夫である信明氏からの寄託、そしてのちの寄贈によるものである（同大学図書館員の方からの聞き取り）。このコレクションは、大原社会問題研究所所蔵のものと部分的に重なり合い、その意味でも興味がもたれるものである。それは『無産者新聞』ポスターや表紙絵などである。同紙は1925年9月、日本共産党（コミニスト・グループ）により創刊されたもので、柳瀬はその専属画家となった。そのころの作品が同大学図書館に所蔵されているのである。本図録に寄せられた論評を紹介しよう。

及部克人「現代の畫家一般は全て漫畫家でなくてはならない」

萬木康博「柳瀬正夢という“山”の大きさ」
松葉一清「門司の近代化の渦中に育つ 柳瀬少年」

柏木博「柳瀬と中野のオヂさん（如是閑）」

井出孫六「『槿の画家』覚え書き」

田中正之「同志！ゲオルゲ・グロッスーグ
ロース研究家としての柳瀬正夢」

柳瀬信明「柳瀬正夢「満州」を歩く」

上記の論評を適宜置いて、及部・片倉義夫・奈良和夫の3氏による解説によりこの図録が形成されたわけである。上記の論評を通読するとわかるように、柳瀬という人物が多方面からとらえられている。このように、彼について多様に論じることができるのは、柳瀬が「画家」とどまらず多様な社会問題・社会運動に関心を持ち、みずから関わった人生だったからといえよう。柳瀬の画業についての武蔵美での展覧会は今回で3回目になる（第1回目は1990年『ねじ釘の画家 柳瀬正夢展』、第2回目は1995年『柳瀬正夢 疾走するグラフィズム』）。このように何度も展示できるのも、前述のような彼の多彩な人生の反映であろう。

柳瀬正夢（1900～1945）は、15歳にして院展洋画部門に入選して画家としてデビューした。その後上京し、20年には読売新聞社で時事漫画を描いた。ところが、この頃から日本における芸術運動、なかでも美術運動は激動の時期を迎える。柳瀬はそのまっただ中に飛び込んでいったのである。23年には村山知義らと「マヴォ」を結成する。その後、グロッスの影響などでプロレタリア美術運動へとひた走るのである。こうして、日本共産党に入党・検挙され再び油彩の道に戻っていく。

以上のような柳瀬の生涯については、上記の論評を通読するとさらによくわかるようになると言えよう。また、展示されたのは油彩のみではなく、ポスター・漫画・パステル・水彩・素描と多方面にわたっている。これにも興味が惹かれた。柳瀬が子供漫画にも手を染めていたことは初めて知った。また、乃木希典邸での立ち小便のカリカチュア漫画（同図録39頁）なども

傑作であった。

これまでの柳瀬の生涯は、32年検挙・翌年懲役2年執行猶予5年の刑を受けた以後の動向はあまり明らかでなかったと言えよう。この点を明かにした本図録は評価することができる。38年まで執行猶予の付いた身でありながら、30年代後半における抗日漫画や時事漫画を描き続けたこと、1935年創刊の日本漫画研究会『漫画の國』への寄稿など注目すべき点が本図録から窺うことができる。同研究会には岡本一平・矢部友衛らプロレタリア美術運動出身者を見いだすことができる。また、如是閑の『我等』にも関係した千金貫事を中心とした会（1936年）においては、柳瀬のほか橋浦泰雄・村山知義・秋田雨雀・平林たい子・鈴木安蔵らプロレタリア文化運動に深く関わっていた人々が結集していた（同図録108頁）。さらに、上記柳瀬信明氏の「柳瀬正夢「満州」を歩く」では中国での柳瀬の動向がわかる。柳瀬の写った写真（2葉）も貴重なものである。

これまでの柳瀬の評伝では、まつやまふみお『柳瀬正夢』（1956年、五味書店）がよくまとまったものである。まつやまが柳瀬の身近にいたことで、よく彼の生涯をまとめることができた。

とはいえ、出版年代が遙か昔のこととなり、現代において彼の再評価を含めて新たな評伝の刊行が期待されるところであろう。今回の図録でもかなり多面的な側面を明らかにしているとはいえ、図録という性質上どうしても断片的なものとならざるを得なかった。この図録などの成果をもとにして、柳瀬の新たな評伝の完成が期待されるところである。

なお、この図録には生井純子氏が編集協力されている。生井氏は大原社会問題研究所編・拙著『ポスターの社会史』（2001年、ひつじ書房）の編集者でもある。その縁もあって同氏から私信をいただき、本図録編集の苦労話と、やり遂げた達成感についてうかがうことができた次第である。

（編集 及部克人・武蔵野美術大学美術資料図書館『武蔵野美術大学柳瀬正夢コレクション20周年記念 槿の画家 柳瀬正夢展 河と振る光と（油彩・パステル・水彩・素描） プロレタリア漫画からコミック漫画へ（漫画・ポスター・舞台装置・装幀）』武蔵野美術大学美術資料図書館，2008年10月刊，8頁+120頁，定価1,000円）

（うめだ・としひで 法政大学大原社会問題研究所 兼任研究員）

●敗戦直後の政治・社会運動の黎明期をリアルに描き出す、共同研究の成果

「戦後革新勢力」の源流

占領前期政治・社会運動史論 1945-1948

法政大学大原社会問題研究所／五十嵐 仁編 A5判上製・3900円（税別）

敗戦直後の食糧闘争から社会党の結成・共産党の公然化や、それとの関連で発展していく労働・農民運動。さらに、青年・学生、女性運動の展開…戦後革新運動の黎明期を史実に基づいて解きおこす。

大月書店 〒113-0033 東京都文京区本郷2-11-9／電話 03-3813-4651（代表）
<http://www.otsukishoten.co.jp/>